
“補助者” “からその先へ” ～地域の中小病院実務者が振り返るこれまでとこれから～

田中有希子
沼隈病院 医局 (DA)

本発表では、地域中小病院における医師事務作業補助者（ドクターアシスタント：DA）の導入から現在までの歩みと、今後の展望について報告する。

当院は医師事務作業補助体制加算 1 を取得し、DA が診断書作成や外来・入院診療補助、レジストリ登録、医師スケジュール管理など多岐にわたる業務を担っている。

導入当初は教育体制の未整備や職種理解の不足により業務の属人化やスキル差が課題であったが、業務標準化やキャリアパス構築、外部研修の活用、他院交流を通じて知識・技能の体系的習得環境を整えた。特に整形外科領域においては、手術支援や二次性骨折予防に向けた連携体制を確立し、検査のセット化や事前スケジュール管理により、医師の業務負担を月平均 70 時間以上削減し診療効率化に寄与している。

DA は、単なる“補助者”ではなく、医療職を支える専門職として“医療職と共に医療現場を築き上げている”存在である。しかしながら、職種理解不足や「便利屋」としての認識といった課題も残る。これらに対し、院内外への情報発信や業務実績の可視化を推進し、DA は単なる“補助者”から“プラクティショナー”へと役割を拡大しつつある。

患者に最適な医療を届けるため、医療職を支える専門職として地域医療に貢献する DA の可能性を具体例とともに示した。